

折りたたむ椅子展

CHAIRS GALLERY 第22期企画

おりたためるイス展

生活用具としての椅子には、わたしたちの身体を支える機能が第一義的に求められます。しかし、それに留まらず実際の使用現場や流通現場においては、収納性、携帯性、輸送の効率性といった要素も要求され、それらを実現するものとしてスタッキング(積み重ね)、ロックダウン(分解・組立)、フォールディング(折り畳み)といった機能を有する椅子が造られています。

今期のチェアーズギャラリーでは、その中でも折り畳みの動きや変形のアイデアが見所となるフォールディングチェアを探り上げて展示。

— 2010.2.14.sun

入場無料

CHAIR? GALLERY

コレクション館
チェアーズ・ギャラリー

会場/コレクション館 チェアーズギャラリー
11:00~17:00

休館日/毎週月曜日、年末年始(12月30日~1月4日)

監修/織田憲嗣 主催/旭川デザイン協議会、織田コレクション協会の協力/旭川家具工業協同組合

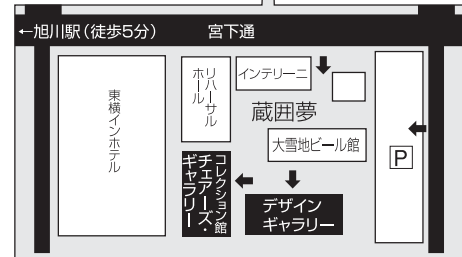
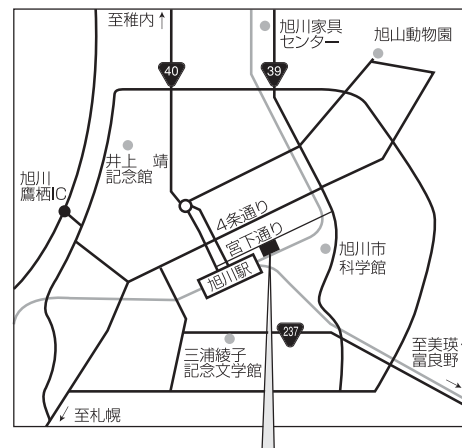


デザインギャラリー

DESIGN GALLERY

INFORMATION

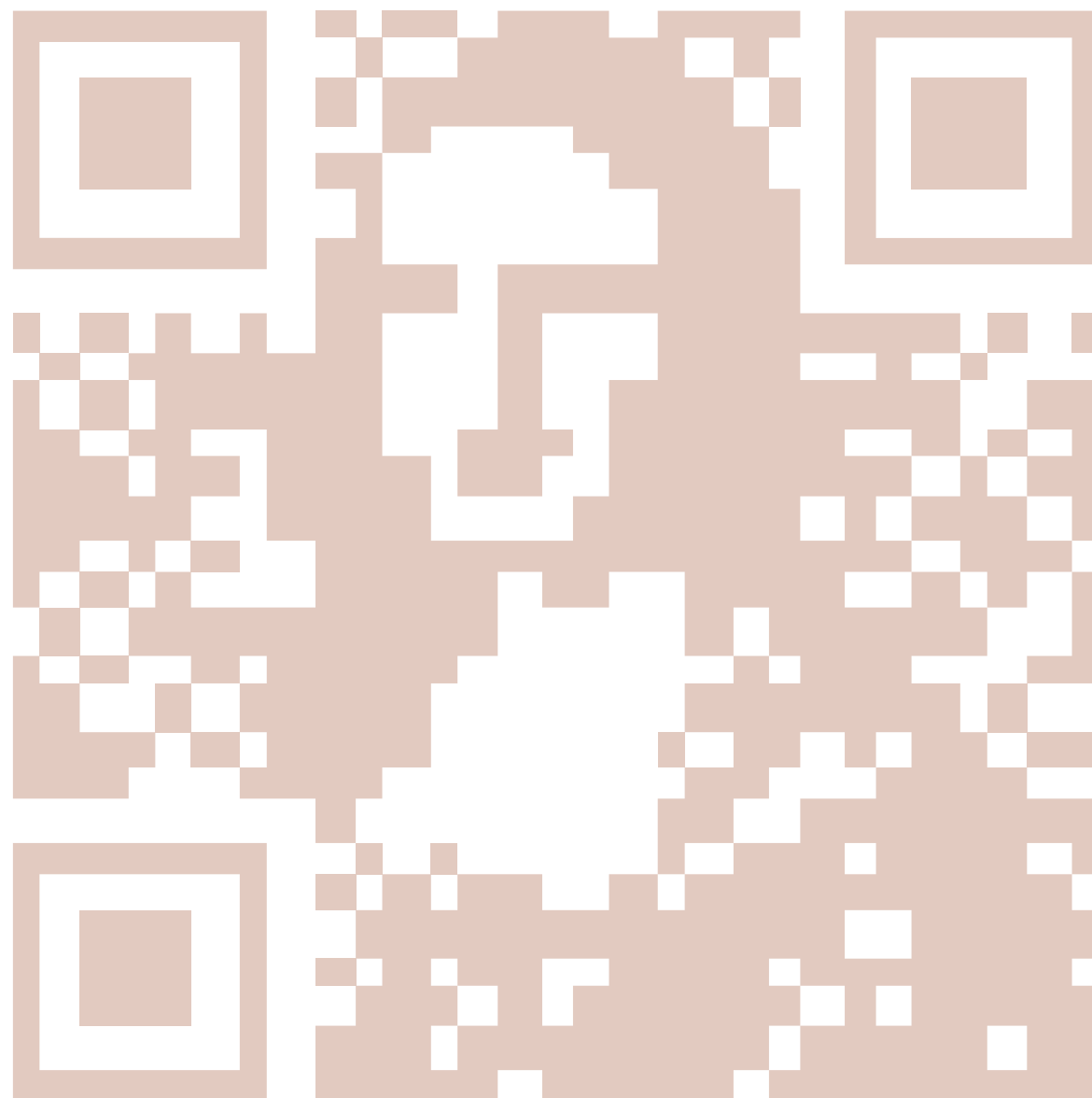
- 第56回写真道展入賞・入選作品巡回展
(道写協旭川支部) 12月1日(火)~12月6日(日)
- 道写協旭川支部創立40周年記念写真展
(道写協旭川支部) 12月7日(月)~12月13日(日)
- 凍土会全道移動展—旭川(凍土会)
12月15日(火)~12月20日(日)
- 修了書作展(教育大学旭川校書道研究室)
12月22日(火)~12月27日(日)
- 旭川デザイン協議会展(旭川デザイン協議会)
1月5日(火)~1月20日(水)
- 第10回建築家展(ASJ旭川スタジオ 橋本・川島Co.)
1月23日(土)~1月24日(日)
- 第67回道北書初展(道北書初展実行委員会)
1月26日(火)~1月31日(日)
- 東海大学卒業研究作品展
2月2日(火)~2月10日(水)
- デザインキャンプ(aadc)
2月13日(土)
- 教育大学旭川校 書道研究室卒業書作展
2月16日(火)~2月21日(日)
- 旭川高等技術専門学院 第13回修了研究作品展
2月23日(火)~3月7日(日)
- 教育大学旭川校 美術科卒業制作展
3月9日(火)~3月14日(日)
- 旭川西高美術・書道校外展
3月16日(火)~3月21日(日)
- 国井しゅうめい水彩画教室展(国井しゅうめい)
3月23日(火)~3月28日(日)



DESIGN NEWS 43° Vol.20

旭川デザイン協議会会報

ASAHIKAWA DESIGN ASSOCIATION



旭川デザイン協議会

2009 Vol.20
発行日/2009年12月
発行/旭川デザイン協議会
発行責任者/小林 謙
編集スタッフ/上田政夫・井上隆也・西嶋美代子・福士成悟・松澤 衛・矢野野義之

■お申し込み・お問い合わせ先

〒070-0030
旭川市宮下通11丁目 蔵田夢 コレクション館
旭川デザイン協議会事務局
TEL 0166-23-3000・FAX 0166-23-3005

http://ada-jp.org/
e-mail:ada@ada-jp.org

これが わたしのデザイン

わたしの仕事 Part 1



A/勝浦恭子

- B/ライター
- C/旭川市春光6条4丁目4-24
- D/携帯.090-2056-7488
- E/豆本「旭橋」
- F/応相談
- G/豆本「旭橋」～旭橋70年のあゆみ

「いくつもの時代と思い出を刻みながら、人々の暮らしを見つめてきた橋があります」
旭橋の70周年を記念して作った豆本「旭橋」の書き出しです。大きさは10cm×10cmで48ページ。ここに旭橋の70年間の歴史や、旭橋に様々な思い出を持つ人の話を簡潔に盛り込みました。

1ページの文字数は少ないものの、旭川開発建設部からお借りした資料は、段ボール箱にほぼいっぱい。資料を読み込んでいくうちに、私自身がこの橋への思いを強くしてきました。それだけに愛着のある仕事の一つです。
旭橋は、次の世代に残したい北海道の宝物として「北海道遺産」に選定されていますが、その紹介文にも、冒頭のコピーが引用されています。また、旭川開発建設部のホームページ「北海道遺産 旭橋」(http://www.as.hkd.mlit.go.jp/asahibasi/asahibashistory/index.htm)でも、豆本の全ページを読むことができます。

現在私が携わっている「こうほう旭川市民」の愛称が、公募で「あさひばし」となったのも、何かの縁でしょうか。旭川のシンボルともいわれる旭橋は、もうじき塗り替え工事が終わり、リフレッシュしてさらなる年月を刻んでいくことでしょう。
H/旭川観光協会、旭橋を語る会、北海道開発局 旭川開発建設部



A/西嶋美代子 小川健一

- B/株式会社昇夢虹(しょうむこう)
- C/旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター2F
- D/Tel.0166-68-2004
- E/毛かのにパッケージ
- F/なし
- G/水産加工会社様オリジナルのパッケージです。お客様の要望は、どこにもないオリジナルリティを最大限に生かしたデザインにしたいという事でした。

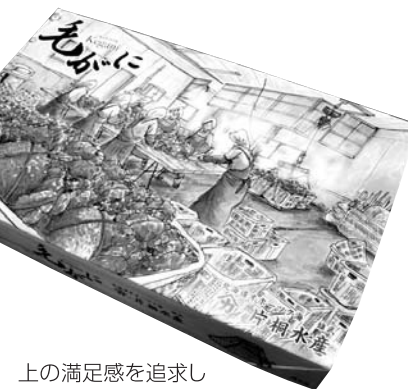
そこで打合せ中、この道数十年という熟練の方々が多く働いておられることにヒントを得、加工場の風景に焦点をあてたデザインを提案しました。

通常ありがちな海産物のパッケージデザインを思い切って視点を変え、全面イラストを用いて全く独自のデザインに仕上げました。又、側面はカニを獲るカゴや会社のトラックなども配し、よりオリジナルリティを追求しました。

これは一例ですが、私達はお客様の頭の中にあるイメージを形にし表現していきます。ただ制作するだけでなく、求められる以

A/石田 悟

- B/有限会社 アトリエネオ
- C/旭川市3条通19丁目左1号中川ビル3階
- D/Tel.0166-37-0103
- E/西川徹郎文学館
- F/入館料/大人500円
- G/西川徹郎文学館は日本俳壇の代表作家で「世界文学としての俳句」を推進する「実存俳句」の提唱者西川徹郎の記念文学館である。西川徹郎は1947年芦別市の新城峠の麓の正信寺に生まれ、65年芦別高校在学中に「氷原帯」新人賞を受賞し、高校生俳人としてデビュー。十代作品を取めた前衛句集「無灯艦隊」は俳壇へ衝撃を与え、84年俳句革命の拠点として「銀河系通信」を創刊。93年講談社学術文庫「現代の俳句」に高浜虚子や種田山頭火等と共に明治以来107人の日本の代表作家として収録されている。2000年『西川徹郎全集』では評論家吉本隆明氏に天才詩人と絶賛され、2003年には先人未踏の五千句書下ろしによる第十三句集「銀河小學校」が刊行された。西川徹郎文学館は俳句の詩人西川徹郎の文学資料を蒐集公開し、市民文化に資すると共に日本文学の真の振興に寄与するものである。
- H/北海道旭川市7条通8丁目(七条緑道)



上の満足感を追求しながらデザインすることを心がけております。デザインの先にあるのは、クライアントの思いや願い、またこのデザインによってより商品の魅力が伝わるように…と心を込めて制作することを大切にしています。

A/滝本 宣博

- B/理創夢工房 りぞーむこうぼう
- C/上川郡東川町1号北44番地
- D/Tel.0166-82-4386
- Fax.0166-82-4386
- E/「ダシ蒸し」土鍋
- F/未定
- G/旭川デザインマンス2009の中で旭川の新しい飯(めし)を開発するために、北海道新聞フリーペーパー「ななかまど」で活躍する「ミニぐるめ君」を中心に、あさひかわのめし「あさめしプロジェクト」を結成。この半年間、多くの仲間達と試食しては考え、考えては試食、試食、試食をくり返して生まれたのがこの鍋です。試食を重ねることに鍋の欠点が多出現、未だに発展途中。につき販売予定日、価格は未定ですが、できるだけ早く商品化を予定しています。
- H/レストラン「ピストロetカフェ ポ プーレ」(旭川市4条買物公園)にて見られるかも。



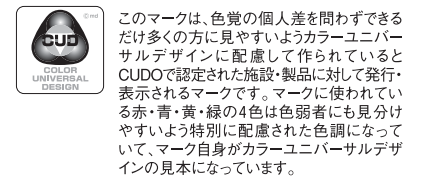
A/やはすのよしゆき

- B/デザインピークス
- C/〒070-0032 旭川市2条通9丁目 道銀ビル 6F
- D/Tel.0166-23-4776
- Fax.0166-26-7378
- E/「(^_^)365(O_O)」(ハローサンロゴ)
- F/¥3,650
- G/365日、365人、365枚の2010年版日めくりカレンダー「(^_^)365(O_O)」は、全国で活躍するJAGDAのグラフィックデザイナー 365人が1人1日ずつデザインを担当。デザインだけでなく印刷技法や紙までもが毎日異なるという、他に類を見ない“捨てられない日めくりカレンダー”です。普通の日めくりカレンダーとは違い、それ以外に何を載せていくかなど、365人が1日1日にいろいろなメッセージを込めてつくられています。365人のデザイナーの個性とグラフィックアートの持つ潜在的なチカラも凝縮されているので、その表現の多様なおもしろさはもちろん、さまざまな印刷技術や紙との相乗効果もお楽しみいただけるカレンダーです。結構、デザインのネタ本的な要素もいっぱいです。ちなみに、北海道からも10人参加しています。旭川は自分だけ。12月23日～27日、札幌のコンチネンタルギャラリーでトークショーと展覧会も開催される予定です。お時間のある方はぜひご覧ください。
- H/通販 http://shop.jagda.org/



A/富士成悟

- B/ワイズ&ブラッツジャパン(有)
- C/旭川市宮下通6丁目JR旭川支社5F
- D/Tel.0166-29-1616
- E/あさひやま動物園 園内案内看板
- G/あさひやま動物園から旭川デザイン協議会がデザインを依頼された案内看板です。近年の海外からの来園者増加に伴う、英語・中国語・韓国語表記が必要ということもありましたが、リニューアルに伴い、色覚障害の方にも配慮したユニバーサルデザインを提案し、採用されたサインです。
- H/あさひやま動物園内





A/伊藤 友一
B/有限会社デザインピークス
D/Tel.0166-22-4771
携帯 090-3773-2058
E-mail: pink@dpeaks.com
E/Wall Design
F/¥800~

G/Wall Designとは、伊藤が3年前から日本国内販売のプロデュースをしている商品です。
取り扱い(株)20パーセントという会社ですが、その会社の役員でもある旭川出身の元スタイリスト鳥羽トシエが、フランス本店のWall Designをなんとか日本でも販売できないかとの思いから、本店のオーナーとの交渉の末に日本販売が実現した商品です。
この商品はフランスのアーティストのグラフィックアートをドイツ製のカットティングシートにしたもので、インテリアとしての(主に壁面専門の装飾用シート)概念は当時の日本にはなく、インテリア雑誌「エルデコ」



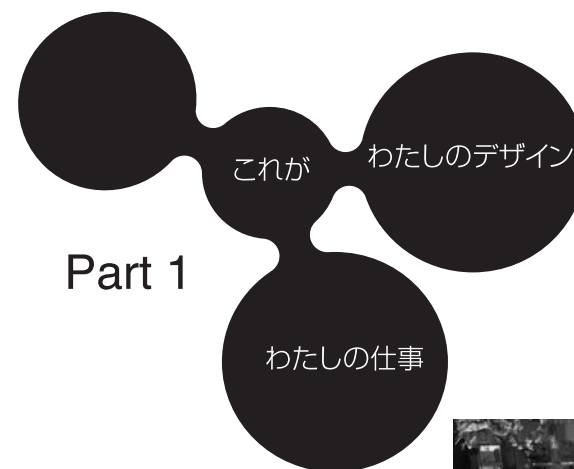
誌上でも大きな話題になりました。
また、「バンブーソン」と言うA4サイズの商品も開発しました。これは昨年まで全国のFranc franc(フランフラン)50店舗にて販売していました。この商品のグラフィックデザインは日本人のデザイナーの作品を採用しています。
H/<札幌> Wall Design 札幌
札幌市中央区南大通西15丁目
tel.011-211-5100
fax.011-211-5234
E-mail: walldesign@20pct.com
<旭川> Fragileフラジール
旭川市3条通9丁目 tel.0166-22-3298
www.walldesign.jp

A/菅井淳介
B/淳工房(JUNCOBO)
C/〒070-0822 旭川市旭岡2丁目8-1
D/Tel.0166-53-8512
Fax. 0166-53-8536
E-mail: glassjun@aqua.ocn.ne.jp
E/木GLASS(きぐらす)
F/2,500円~150,000円
G/木GLASSとは、木工芸とガラス工芸との協働作業により生み出された生活工芸の総称です。種類は照明器具(月の鳥・雪原各シリーズ)・食器(酒器が主)・花器等のおよそ100種類。木とガラスという異素材の組み合わせによる製品を25年近く作り続けています。旭川が生んだ新しい食器のスタ

ンダードデザインに育てて欲しいと願いながら制作しています。
H/使用料飲店 【旭川】大雪乃蔵・かぐや姫・道楽もん・花緒・嵐山・ブラッサリー サヴァ・かくべい 他【札幌】花粋【登別】滝乃家【秋田】炭火でいろいろ焼いてくれや【東京】今半各店・須弥山・季楽・淡如水・広尾の空・神保町 傳・まにわ・器楽亭・雫Dew・いなせやあん庵・山猫軒・燃 他【山梨】六斎【名古屋】伸・serge源's【石川】すずや今日楼【京都】祇園丸山・茶わん坂・京野菜【大分】山荘天水【熊本】かまど・黒川荘 他
H/購入できる小売店 (旭川市内)大雪乃蔵ショップ・旭川グランドホテル売店・淳工房ショップ



A/黒瀬久子
C/旭川市東光13条1丁目4-5 第2小山マンション 201
D/Tel.0166-31-5521
E/ポストカード
F/1枚 150円
G/コンピューターで描いたイラストのポストカードです。これは、今年の春に「cafe花みずき」で行った個展の際に作りました。動物が好きなので、このときは、他にもいろいろ動物を使ったカードを作りしました。普段は、コンピューターの他に、水彩やペーパーカットなどで、グリーティングカードやラッピングカードのデザインをしています。パンフレットやポスター、ロゴなどは、主にコンピューターを使っています。
H/こども富貴堂



A/林田 千秋
B/fragile ~フラジール~
C/旭川市3条通9丁目
D/tel.fax.(0166) 22-3298
営業時間 10:00~19:00
<日曜定休>

今年5月にオープンいたしました、フラワーショップです。生花や観葉植物をはじめ、各種ディスプレイや雑貨、空間演出など暮らしを楽しく彩るためのショップです。鉢や花瓶などの植物に関する雑貨の他、フランス『WallDesign』社のウォールアートステッカー、東京・銀座『nagomi-NATULURE』のオーガニックティーや、札幌『スタジオスキッパー』手がけるリメイクの花台やテーブルといったアイテムも取り扱っています。フラワー教室も開講していますので、興味のある方はお気軽にお問い合わせください。花束やアレンジメントなどは、3,150円以上で市内無料配達しています。皆様にご満足いただけますよう、繊細で丁寧なデザインを心掛けていきたいと思っております。ぜひお立ち寄りいただけますようお願いしています。



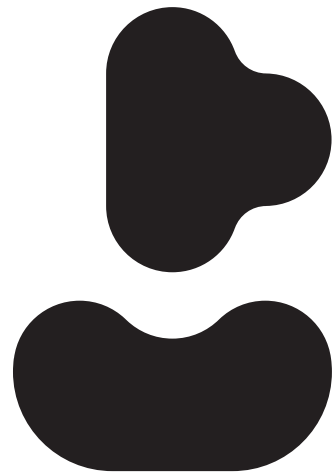
A/和田 徳子
B/株式会社ユニバーサル・ラボ
C/旭川市東光7条7丁目2-10
D/tel.0166-31-3709
E/ポウル
F/2,000~3,000円
G/今年誕生したばかりの会社です。自宅に設けた六畳ほどの「ちいさなとうげいきょうしつ アトリエ・ユニ」でご近所の子供たちや高齢者、マダムを対象とした陶芸サロンを行っております。サロンでは、作ってみたいものを自由に作れる場所を目指しています。また、障害者施設で陶芸を指導しながら、介護の現場で活用できる食器の研究もしています。使用する方や介助する方の要望を取り入れた、オーダーメイドの食器、赤ちゃんの百日のお食初めセットから、幼児期の食事前、高齢者向けなどと、さまざまなライフシーンに向けた食器を提案します。
H/「ちいさなとうげいきょうしつ アトリエ・ユニ」
旭川市東光7条7丁目2-10
tel.0166-31-3709



図1
A/下出敏男
B/デザインたちち
C/旭川市東4条4丁目1-15
D/tel.0166-26-6850
E/グラフィックデザイン物・印刷物・ロゴ・イラスト・地図等
F/日当20,000円目指しています。
G/主にパソコンによるデータ制作がベースに成ります。仕上がったデータは印刷物になったり、看板になったり、Web、TVなどにも運用されます。視覚に訴える画像製作業です。
H/図1-公共サインは市のガイドラインに従いデータ入力したものです。設置場所はクリスタルホール周辺です。
図2・3はパンフレットの初期デザインフォーマットです。



図2・3



**ASAHIKAWA
DESIGN
MONTH
2 0 0 9**

いろいろな分野のデザイナーや、企業、関連組織、教育機関が展示会などを通じてデザイン提案する月間として「デザインマンス」を計画し、今年で5回目。6月16日から8月2日の48日間のマンス事業を皆様の協力を得て、予定どおり終了できました。1年目は「バウハウスの建築」、2年目は「トヨタ自動車の1ユニット」、3年目は「パッケージデザイン」、4年目は「小さな工房の一流品」の展示やセミナーなど、その時々にはふさわしい企画を持って継続開催されてきました。

今年のテーマは「食とデザイン」。身近な「食」の周辺から、人間らしい暮らしを彩るものとしてデザインを見直してみましょ。私たちの地域の生活文化と、食を生産する力を結びつけ、この地域のオリジナルな「デザイン」が生まれませんかという、小林実行委員長の趣旨に連動した、2つのプロジェクトと、協賛した8つの併催事業を開催しました。

旭川平和通商店街振興組合青年部との共催事業として行った、1つめの「あさめしプロジェクト」では、旭川育ちの農産品を生かした「あさひかわ・めし」を考案し、飲食店・デザイナー・クラフトマン・農業生産者のコラボレ

ーションにより、食材から器まで「あさひかわ」にこだわったメニューを創るとともに、市民を対象とした試食会を実施した。7月25日の試食会では、102名の応募者の中から抽選で、15グループ44名の方が試食に挑戦し、アンケートにも答えて頂きました。(写真)

会場が旭川屋横の広場のビニールハウス内。真夏の日差しの中、「土鍋ダシ蒸し野菜ラーメン」など蒸し暑い会場で、小林委員長・総合プロデューサーの伊藤さん・ディレクターの尾崎さん・調理の矢吹さん・食材の請川さん・器製作の滝本さんには、大変なご苦労を頂き、参加頂いた皆様にも満足のいく試食イベントとして終了しました。その後、「あさめし」は、商品化に向けた取り組みが継続されています。

2つめの「スプーンプロジェクト」では、「私の考えるスプーン」の募集・展示として、応募のあった様々な人が考えたスプーンのスケッチや現物を展示し、来場者投票による受賞作品20点を表彰しました。また、「大切な人に贈りたいスプーン」のワークショップと様々な立場の方々が考えたスプーンの展示を北海道立旭川美術館との共催で行いました。小学生を対象とした

ワークショップでは、大人でも難しいスプーン制作を工芸デザイン協会の中井会長などの協力を得て行い、指を切るなどのけが人も無く立派に出来上がり、展示できました。

美術館の窓ガラスを背景としたディスプレイは、東海大学の笹川先生のアイデアの基に進められ、スプーンなどを真空パックに閉じ込め、ワイヤーを通して吊るし、床とすれすれに重りを入れたバランスを取り付ける展示作業は夜中までかかりましたが、出来上がりの評価はすこぶる上々で、作業に従事して頂いた方々の疲れもふっとんだ事と思います。(写真)

併催事業としては、「食とデザイン」に係わる8件の事業を実施しています。旭川工芸デザイン協会主催の「第39回旭川工芸デザイン協会展」や、旭川広告デザイン協議会主催の「aadc展2009 旭川の食」などが開催されマンス事業を終了しています。(写真)



「私の考えるスプーン」の展示(北海道立旭川美術館)



「大切な人に贈りたいスプーン」のワークショップ



「あさめしプロジェクト」試食品



「あさめしプロジェクト」試食会風景



「第39回旭川工芸デザイン協会展」



「aadc展2009 旭川の食」プレゼン風景

ミニシアターに変身した
デザインギャラリー

「デザインギャラリーで映画を上映したら素敵だろうね」との声が出たのは、6月20日の交流サロン。市内で「neoアジア映画祭」を主催している光岡慎二さんの提案でした。勝浦を含め、映画好きの会員が「いいね、やろうよ!」ということになり、その場で10月13日の上映会が決定。この日しか、ギャラリーの空きがなかったので。交流部長・小川先生の決断の速さよ!

さっそく上映作品を何にしようか考えました。ADAらしく、表現や創作にかかわる作品を選びたいと思い、だれもが知っている「ピカソ」という王道をセレクト。スクリーンとプロジェクター、音響を藍工房さんをお願い、DVDで上映することになりました。

75歳にして圧倒的なピカソの
エネルギー

「ミステリアス・ピカソ～天才の秘密」はピカソがどういう風に絵を描くのかを追ったドキュメンタリー。監督は「恐怖の報酬」などで知られるアンリ=ジョルジュ・クルーゾー。1956年フランスで制作。同年のカヌ映画祭で審査員特別賞を受賞しています。

上映会には、会員や会員外の方を含め42名が参加。参加者からは「75歳のピカソのエネルギーに圧倒された」「上映の80分間スクリーンから目が離せず、疲れたが、創作意欲をかき立てられた」「ADAらしい上映会だ。またやってほしい」「今度はピカソ生誕の国、スペイン・ツアーを企画して」等、色々な声が寄せられました。参加いただいた皆さん、ありがとうございました。



Sapporo ADC コンペティション&アワード 2009 aadc会長 やはずのよしゆき

今年も10月11日からの連休に、今年で9回目の札幌adcコンペティション&アワードへどっさり作品を持って参加してきました。こんなにも厳しい経済状況なのに、今年の総エントリー数も829作品(2,473点)と、相変わらず1日では見切れないほどの数とレベルの高い作品がたくさん集まりました。審査会も豪華な審査員の方々をはじめ、涙あり感動ありの熱い想いが交差する審査会となり、aacdメンバーでもある森川瞬氏(北日本広告社)が、見事に審査員チョイス賞(長友啓典賞)と、環境・ディスプレイ部門で銅賞のダブルで賞を獲得。(ちなみに、自分は別の審査員チョイス賞をいただけたにも関わらず、歳という理由で差し替えられてしまうという悲劇的な仕打ちを受けました。。。かわいそ。)年々少しずつですが、旭川からの参加率と出品作品の点数も増え、なかなか旭川以外に目を向けることが苦手(?)

な旭川っ子も、若いデザイナーたちが増え、モチベーションアップや外との関わりを積極的に持とうとするなど、現状の仕事とは別にプラスαな気持ちを持ってデザインを楽しむ姿勢が少しずつ見えてきたような気がします。がんばれっ!旭川のグラフィックデザイナー!で。審査会の後は受賞パーティーと交流会。審査員の方々や札幌のデザイナーと交流したり、なかなか旭川以外のデザイナーたちは、またとないチャンスとばかり大いに盛り上がっていました。



1999年11月11日に東川町役場の大会議室に町民30人と役場の職員など10人が集まって「第1回 美しい東川の風景を守り育てる基本計画策定町民会議」が開かれました。タイトルは物々しいけれども、町の面積の約40パーセントが国立公園に含まれる特徴を活かし、「未来の東川町が美しく輝く町」になる事を目指し、自分達の町を自分達で作るために集まった会議で、2001年秋までに10回の町民会議が開かれ、そして2002年に「美しい東川の風景を守り育てる条例」が制定されました。

今、私の手元には「東川景観計画美しい東川を守り育てるために」の表題がある、A-5、31ページフルカラーの小さく薄い本があります。これは写真の町東川町が2007年に町民向けに出した冊子で、この本の4、5ページには東川町在住で木象嵌工芸家として活躍する相和工房の大筋利明、マサ子さん夫婦の生活が紹介されています。「毎日欠かさない庭の手入れは今、一番の楽しみ。」「毎日1時間の草刈りは心がリフレッシュします。」「景観もこのまちの大切な資源です。」の言葉と一緒にきれいに手入れのされた1700坪の広大な庭の写真も写っています。さらにページをめくっていくと「東川風住宅の基本的な考え方」の欄

があり「屋根の形は5/10から10/10の勾配屋根、色は濃緑や黒系の濃い色のみ」「壁面の木材利用」「建ぺい率40パーセント以下」「2階建て以下、高さ10メートル以下。」「庭は緑地率20パーセント以上、2本以上の樹木を植樹。」など細かく具体的な数字も出て来ます。さらに読み進めると、16ページ目からは東川町全体を商店街地域、住宅地区、農村地区など12カ所に分けた「地域ごとの環境づくり」も書かれ、私や前述の大筋さんが住む上キトウシ地区は「農業と森林と芸術が調和する創作工芸の里」のサブタイトルが付き、「創作工芸活動を行う人たちが暮らすこの地域の環境や景観特性をを極力保全し、美しい山間集落地帯づくりを推進する。」と書

かれているように、各工房が1000坪以上の敷地に住み、庭の手入れに仕事以上の汗を流しているのでは。2007年には250本の桜の苗木をこの地域に植樹する事も出来ました。

全ての内容に強制力がある訳ではありませんが、この条例が出来て以降、原野商法のような悪質不動産売買が劇的に減り、新規住宅地域は100坪以上の広い庭と建物も全体に一体感がある色彩とデザインで落ち着いた色があり、大雪山の山並と調和する住宅街を形成しています。また、携帯電話の高い中継塔も見慣れた白い金属アルミ色ではなく渋い焦茶色に塗られていて、車で走っていると、ここが東川町である事を実感します。



東川風住宅の考え方と設計のポイント。
東川風住宅設計指針

大雪山の山並みと調和するゆとりと居るおのいる住宅地景観を目指して

東川風住宅の基本的な考え方と活用方法

- 東川風住宅設計指針は、全部で13項目を設定しています。
- 指針は、全て一般の戸建住宅を対象とした表現となっていますが、その考え方については、農家住宅、共同住宅、店舗、事務所、工場など多様な建物に活用可能なものです。

ポイント(1) 緑化

【◎ 植栽】
基本的な考え方
●我が家のシンボルツリーや草花など、道路からの景観に配慮した植栽を行う。
●敷地の道路に面した部分は緑地とし、工作物の設置を行わない。
基準
●2本以上の樹木を植樹
●緑地率20%以上

【◎ 庭木の形】
基本的な考え方
●大雪山の山並みと調和した樹形を演出できるように配慮する。
基準
●5/10~10/10勾配

ポイント(2) 住宅本体

【◎ 屋根の色】
基本的な考え方
●濃い色のみ(濃緑・黒茶・濃緑・黒系) ※P12に別表あり

【◎ 外壁の色】
基本的な考え方
●着色を伴う外壁材は、自然の風合いに調和するように周囲の緑より6色手控えを要する。
基準
●素材色を尊重し、横断材は原則不可(白・グレー・ベージュ・クリーム・茶) ※P12に別表あり

【◎ 屋根の形】
基本的な考え方
●大雪山の山並みと調和した樹形を演出できるように配慮する。
基準
●5/10~10/10勾配

【◎ 壁面の色】
基本的な考え方
●我が家のシンボルツリーや草花など、道路からの景観に配慮した植栽を行う。
●敷地の道路に面した部分は緑地とし、工作物の設置を行わない。
基準
●2本以上の樹木を植樹
●緑地率20%以上

【◎ 庭木の形】
基本的な考え方
●大雪山の山並みと調和した樹形を演出できるように配慮する。
基準
●5/10~10/10勾配

【◎ 屋根の色】
基本的な考え方
●濃い色のみ(濃緑・黒茶・濃緑・黒系) ※P12に別表あり

【◎ 外壁の色】
基本的な考え方
●着色を伴う外壁材は、自然の風合いに調和するように周囲の緑より6色手控えを要する。
基準
●素材色を尊重し、横断材は原則不可(白・グレー・ベージュ・クリーム・茶) ※P12に別表あり

ポイント(3) 住宅周囲

【◎ 車庫・物置】
基本的な考え方
●車庫、物置を設置する場合は、住宅本体との調和に配慮する。
基準
●最高の高さ4.5m以下
●最高の軒高3.0m以下

【◎ 庭の制限】
基本的な考え方
●塀を設ける場合は、極力木塀や石塀とする。
基準
●木塀などは1.2m以下
●石塀は2.0m以下

【◎ その他付属物】
基本的な考え方
●塀を設ける場合は、極力木塀や石塀とする。
基準
●木塀などは1.2m以下
●石塀は2.0m以下

ポイント(4) 配管と構構

【◎ 配管の露出】
基本的な考え方
●生活空間、準生活空間、準居住空間に配管を露出させる場合は、周囲の景観と調和させる。
基準
●配管の色は周囲の景観と調和させる。

ポイント(5) バランス

【◎ 住宅の面積】
基本的な考え方
●敷地規模に見合う住宅規模とし、庭空間を演出できる面積とする。
基準
●建ぺい率40%以下
●容積率60%以下
●容積率60%以下

【◎ 住宅の高さ】
基本的な考え方
●庭園の前面を演出するとともに、周辺の環境へ影響を与えない高さとする。
基準
●地上2階建て以下
●最高の高さ10m以下

【◎ 庭園の位置】
基本的な考え方
●開放感のある庭園を演出できるように敷地境界の距離をとる。
基準
●境界線から2m以上後退
●最高の高さ3m以下の付随建築物の場合は1m以上後退

【◎ 周囲との調和】
基本的な考え方
●周囲の住宅との調和に配慮する。
●近隣住民にルールを決められた調和を形成する。

地域のデザイン力を次世代へ

東海大学 望星デザイン塾2009

第1回デザイン講座
ブランドデザインの現場から
とき:10月2日
ところ:旭川ターミナルホテル
講師:加藤 淳



講座
建築プラットフォーム
としてのCAD活用
とき:10月6日・9日
ところ:東海大学旭川校舎
講師:渡辺 宏二



講座
次世代に引き継ぐ住まい
とき:10月27日・30日
ところ:東海大学旭川校舎
講師:石田秀樹・藤森 修

「次世代に引き継ぐ住まい」

①10月27日 長持ちの秘訣 (石田秀樹教授)

②10月30日 北欧・デンマークの暮らしとすまい (藤森 修准教授)

欧米では住宅の寿命が長い。僕も北欧で生活していたことがあるが、ほとんどのアパートが築100年以上の歴史を背負っていた。一方で道内の住宅の平均寿命は20年という。

この講座は100年住宅というフレーズがようやくわが国で聞かれるようになった風潮を背景に計画されたものである。初回は本学の石田秀樹教授が「長持ちの秘訣」というテーマで、わが国の住まいの健康状況の報告から始まり、欧米諸国での各種工法の取り組み、更には石田教授自身が手がけた道内の戸建住宅における設計戦略を例に挙げるなど、非常に具体的で専門分野以外の参加者にも分かりやすい内容であった。



2回目は筆者である藤森が担当した。

数ヶ月間留守にすると僕の東京の自宅ポストには、ほぼ同じような新築マンションのチラシが異常な量、一方的に詰め込まれている。この圧倒的な量を目にすると破る気力も喪失させられ、思考停止状態になる。押し付けられるのはチラシだけでなく、日本のすまいの価値観そのものではないか。こうしたマンションは日本の集合住宅の様式として依然として常識となっている。北欧デンマークでは近年、建物の物理的な寿命には問題ないが、取り壊しが検討されている例がある。かつての「高級マンション」である。非人間的なスケールで屹立する建造物は周囲に影を落とす。犯罪の温床になったりスラム化するなど、もはや安全で良好なすまいの環境とはいえない。デンマークでは1968年の「学生の蜂起」の影響や、国から独立した自治区である特殊な村の影響ですまいの方向性が軌道修正された経緯がある。「隣人を泥棒と思え」



といわんばかりの隣人疎外型マンションが否定され、住人の連帯感を生むような設計方法が工夫されてきた。

集合住宅を舞台とする犯罪の場合、わが国では設計者の責任は追及されない。当講座では北欧の住宅事例の紹介の後、わが国でかつて犯罪の温床となったマンションに触れ、果たしてその建物自体には犯罪を誘発する問題がなかったのだろうか、という問題提起も行った。虚栄心を生み、疎外感を生む。どれも気が滅入る建物ばかりだ。

次世代の住環境を考える場合、わが国の紋切り型マンションを、批判的視点を欠いたまま無責任に引き継いでいのだろうか疑問が残る。破ったチラシはリサイクルされ、再び同じような図像が印刷されていくのだろうか。東京は見捨てた。せめて東京の病理を道内に持ち込まないで欲しいと考えている。(文・藤森 修)



東海大学芸術工学部では、1972年の東海大学工芸短大開設以来、地域の産業・行政・市民生活と密着した教育を行っています。デザインや建築は、専門家の能力と、生活環境、生活人となが一体になって独自のものを創造するものだと思います。こういった観点より、今般旭川市からの委託事業である「デザイン力次世代継承事業」を実施するにあたり、事業全体を「望星デザイン塾2009」として、広範な専門家・市民・青年も参加できるものにしました。これらの講座を通して、地域の活力につながる一助となれば幸いです。(告知パンフレットより)

講座
木材を科学する
とき:10月13日・16日
ところ:東海大学旭川校舎
講師:山岸 宏一



講座
インテリアコーディネートによる快適空間の作り方講座
とき:10月20日・24日
ところ:東神楽町個人宅
講師:織田憲嗣



プロジェクト
農業生産とキッチンをデザインで結ぶ旭川の新メニュー開発
とき:10月~(5回)
ところ:東海大学旭川校舎
講師:小林 謙(他)



ワークショップ
ハイブリッドな絵画教室
とき:10月17日・18日
ところ:東海大学旭川校舎
講師:伊地知活彦

「ハイブリッドな絵画教室」

ハイブリッドな絵画教室は、手描きとコンピュータを組み合わせた手法で絵を描く講座です。最終的にはコンピュータを使って仕上げるのですが、手描きは下絵ではなくてメイン制作になります。手で紙に直接描く作業が中心で、コンピュータは補助的に使用します。パソコンの発達によってコンピュータによる制作100%でも絵が描ける時代になりましたが、手でしっかりと描けなければ、コンピュータを使っても良い作品は描けません。逆の言い方をすれば手で描けさえすれば、コンピュータでも描けたも同然なのです。コンピュータばかり使って描いても、絵は上手になりません。絵が上手になるには、やはり手描きが大切なのです。本講座では、まず、しっかりとエンピツ画を描きました。それだけでも立派

なエンピツ画作品として通用するぐらいに描き込みます。エンピツ画は、全ての造形の源となる絵画法ですが、最近はおろそかになりがちです。白黒だから、地味な作品に感じてしまうのでしょうか。白黒の作品でも、コンピュータを使えばいつでもカラー作品に変えてしまう事ができるのです。だから、どんどんエンピツ画を描きましょう。本講座を通して、手描きの大切さを感じてほしい。それがコンセプトでした。受講生は、小学生から大人まで広い世代が集まりました。ちょっと時間が足りなかったのが反省点として残りましたが、楽しんでもらえたようでした。(文・伊地知活彦)

ワークショップ
アイスドームの構造技術と空間利用
とき:12月~2010年2月
ところ:東海大学旭川校舎
講師:粉川 牧



カラーで紹介できないのが残念です(ADA会報制作担当)